

頭書

世界國畫

亞細亞洲

一

明治二年己丑正月初冬

世
必
成



福澤諭吉譯述

慶應義塾
藏印

世界國畫序

諺ニ云ク災ハ下ヨリ起ルト抑災害下ヨリ起ル
ルハ幸福モ亦随テ下ヨリ生ス可シ然ハ則チ天
下ノ禍福ハ其源蓋シ他ニアラス國民一般ノ知
愚ニ係ルヲ推シテ知ルベキノミ今爰ニ世界國
畫ノ著アルモ專ラ兒童婦女子ノ輩ヲシテ世界
ノ形勢ヲ解セシメ其知識ノ端緒ヲ開キ以テ天
下幸福ノ基ヲ立ントスルノ微意ノミ書成ルニ
及ヒ合衆國ヨリヨル州ノ士人ヨルプランク



氏ノ文章ヲ翻譯シテ序文ニ代ルヲ左ノ如シ
世ノ文人筆ヲ下シテ人ノ功業ヲ表スルモノ
常ニ其文ノ趣工ヲ盛ニシ或ハ經濟家ノ知寸
ヲ譽メ或ハ武將ノ勇膽ヲ稱シ或ハ說客ノ明
辯ヲ贊シ字句秀英文章華麗自カラ人ヲシテ
功名青雲ノ趣ヲ想像セシムルモノ尠カラス
然リト雖_レ事實天下ノ裨益ヲ謀リ世ノ為ニ
功ヲ成スノ大小如何ヲ論スル片ハ誰カ學校
教師ノ右ニ出ルモノアラン何物カ人民教育

ノ重大ナルニ若カン

我合衆國ノ諸州文明寛大ノ趣旨ニ基キ民間
ニ小學校ノ法ヲ設ケ每户每人其教育ヲ被ラ
サルモノナシ例ヘハ「ニウヨル」州ニ於テハ
闔州ヲ九千區ニ分テ每一區必ス一所ノ學校
ヲ開テ教ヲ授ケリ但ニ五十所ノ大學校及ヒ許
多ノ私塾ハ此數ノ外ナリ

此學校ニ出入スル兒童ノ數五十萬人ニ下ラ
ス此外上級ノ學校ニ於テ教ヲ受ル少年モ九

千乃至一萬人ノ數アリコレニ由テ考レハ人間交際ノ大事ニ関シ或ハ益ヲ為シ或ハ害ヲ為シ其禍福ノ源タル可キモノハ教授先生ノ風俗ト其人品ノ高下ニ在ルヲ知ル可シ豈コレヲ至重ノ任ト云サル可ケンヤ

近來ニシヨルニ於テ人物ヲ選舉スルニア

リテ其時入札ヲ投シタルモノ三十余萬人ナ

リシ奉行ナドノ蓋シ再後三十年ノ星霜ヲ過

キナハ此人負ノ大半ハ物故シテ繼テ其身分

ニ代リ其職ヲ奉スル者ハ他ナシ方今當州内
ニ在テ一萬人ノ教師ニ随從シ初學入門ノ教
ヲ受ル兒童ナラン

我國人衆庶一般相為ニスルノ公法ヲ以テ國
體ヲ成シ其國ニ益アルヲ甚洪大ナリ然ルニ
此國益ヲ為ス所ノ源ハ唯前条ノ一事ノミナ
ラス他ニ又功德ノ大ナルモノアリ其大ナル
者トハ何ソヤ慈母ノ教育即是ナリ政府其體
裁ヲ寛大ニスト雖_レ議政其法ヲ巧ニスト雖

氏治國ノ君子經濟ノ為ニ策畧ヲ運ラスモ盡
忠ノ義士報國ノ為ニ身ヲ殉スルモ其國ニ益
スル所ノ實功ヲ論スレハ母ノ子ニ教ルノ功
徳ニ及ハサルヲ遠シ

後世若シ我共和政治ノ人民其先人ノ富強ヲ
承ケテ其名其實ニ耻サルモノアラハ此人物
ハ必ス母ノ賢徳ト知識トニ由テ然ル者ナラ
シ先ツ人ノ心ニ慈悲温和ノ情ヲ起シテ其習
慣ヲ成シ愛孝ノ道ニ先入セシメテ其方向ヲ

正々シ人類ノ職分ヲ知ラシメ萬物ノ靈タル
責ヲ辨シ以テ明德ノ門ニ入ラシムルノ道ハ
唯慈母ノ鞠育教養ニ由テ得ヘキナリ

前条ノ如ク慈母ノ教育ハ其子ノ本心ヲ誘導

シ純精無雜神靈微妙ナルモノト云フ可シ此

教ニ由テ切ヲ奏スルモノハ學校教師ノ教ナ

リ其功德亦小ナラス今此國ニ於テ學校ノ増

加スル毎一年千ヲ以テ計フ此學校ニ在テ教

ヲ授ル者盡ク皆博識ノ士ニシテ腐儒ノ臭ヲ

去リ小説ニ惑ハスシテ真理ノ趣ヲ解シ其道
ヲ尊ヒ其教ヲ好ミ當務ノ職ヲ達シテ節義ヲ
守リ以テ風化ノ徳ヲ盛ニセハ其恩ノ生靈ニ
及ノ所實ニ鴻大無窮ナル可シ

明治二年
八月

福澤諭吉 譯

九例

一此書は世間より翻譯書の風は異なれども
其實ハ皆英吉利亞米利加にて開版したる地
理書歴史類を取集めその内より肝要の處に
け通俗に譯したるものにして私の作意ハ毫も
交わら

一西洋の年号なり其國の宗旨の改りたる年
を元年と定め明治二年ハ彼千八百六十九年
に當る

一物の数ハ一十百千万十万百万千万一億十億
百億と十倍ワ、此位をて次第を計へ上るな
り

一英の一里ハ千七百六十ヤリとて一ヤリ

は日本ハ三尺少一余あり故に其一里ハ

日本乃十四丁四十間余に當る英の地理の里

法ハ少一長く其一里は二千二十五ヤリとて

は當る即ち南北緯度の一度を六十に分ち其

一分の長さなり

一地名人名等は西洋の横文字を讀て畧との音
よ近き縦文字を當るふとナルハ古來翻譯者
此思々よ色々乃文字を用ひ同ト土地よても
二も三も其名何々似たり又或ハ唐人の翻
譯書を見て其譯字を真似したるト何りある
ハ唐此文字の唐音以て西洋此字音よ當た
る也へ唐音よ明る此學者達よハ分るべけれ
ども我々共々少くも分る故よ此書中よ
ハ勉て日本人よ分り易き文字以用る中よ

せり實ハいろは計り用ても濟むば厚き筈なれ
 とも本字を記して服へ假名を附けハ記憶を
 する便利かり譬へは南亞米利加にべ以り由
 うとりの處へ平柳と記し何れは勘平の平に
 字と揚柳に柳の字なりと憶ふ記しておぼへ
 易しハ固よりりりとりウとの遠なと辨輕乃辨の字
 は辨慶の辨の字なり論頓の論の字ハ論語の
 論に字なり大抵これ趣向よく譯字を下した
 れども多くは譯書中も普通なる文字ハ無理

ながりも其その中ちゆうに用もちて傍たがひふ假かり名なを附つけねば讀よ者もの其その本ほん字じを當あてせざれば假かり名なの方かたを記き憶おくと

一い近年きんねんまでは日に本ほん人じんも英えい文ぶんを讀よみ得えて和わ蘭らんの書しよの之これを翻か譯やくせしゆへ地ち名なも蘭らん人じんの唱なうと英えい人じんの唱なうと同おなトうしむる由よして譯やく字じの相あ異いありしものあり譬たとへば昔むかし日に蘭らん書しよの翻か譯やく文ぶん中ちゆうに窩くわ々々所ところ徳とく禮らい樂がくと記きし者ものの之これを今いまに填つ地ち利りといひ古ふるの獨ど逸いつを今いまに日に耳に曼まんといひが如ごとき

目録

一の巻

發端

亞細亞洲

同頭書圖入

二の巻

阿非利加洲

同頭書圖入

三の巻

目録

歐羅巴洲

同頭書圖入

四の巻

北亞米利加洲

同頭書圖入

五の巻

南亞米利加洲

同頭書圖入

大洋洲

同頭書圖入

六の卷

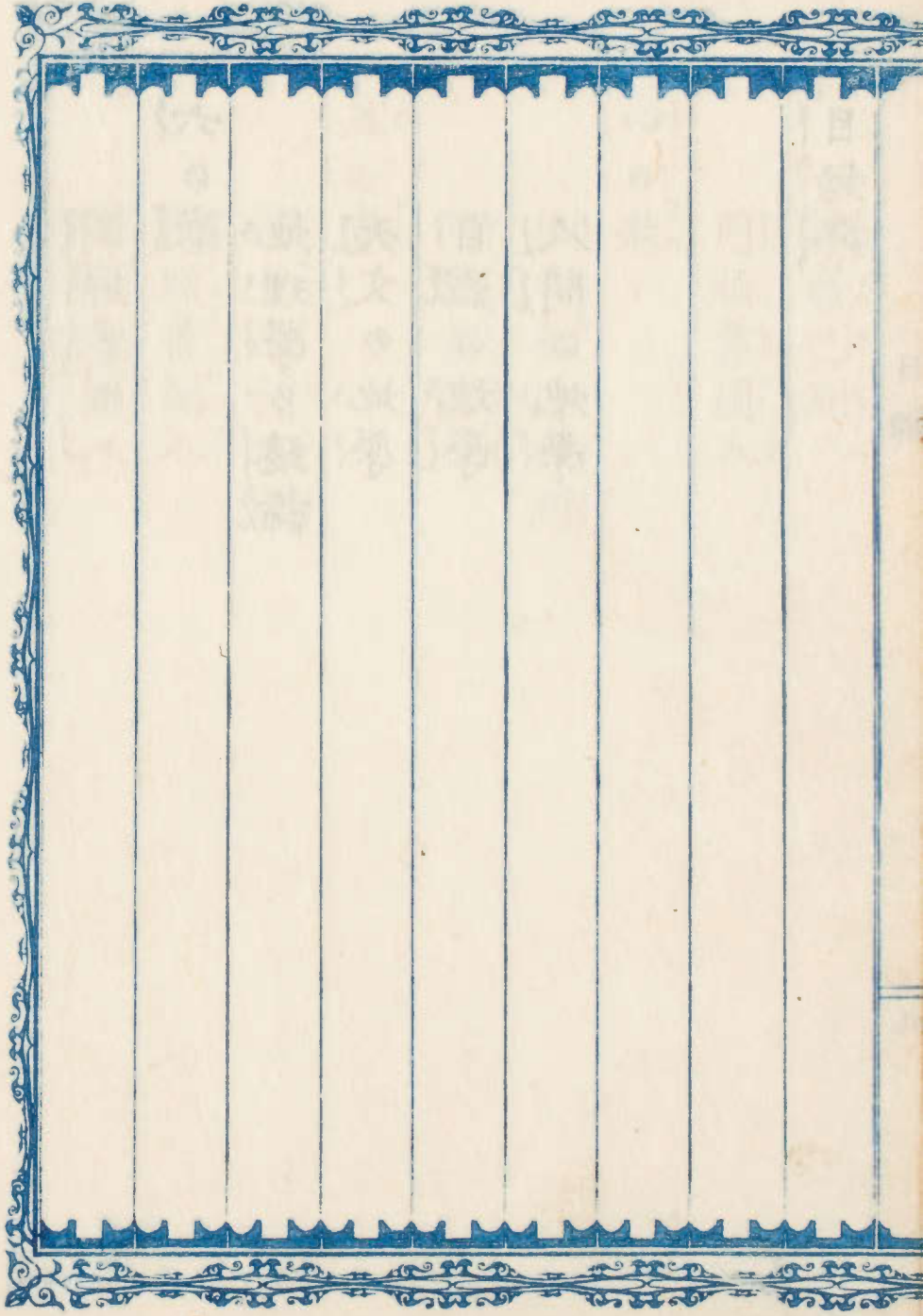
地理學の總論

天文の地學

自然の地學

人間の地學

目錄終

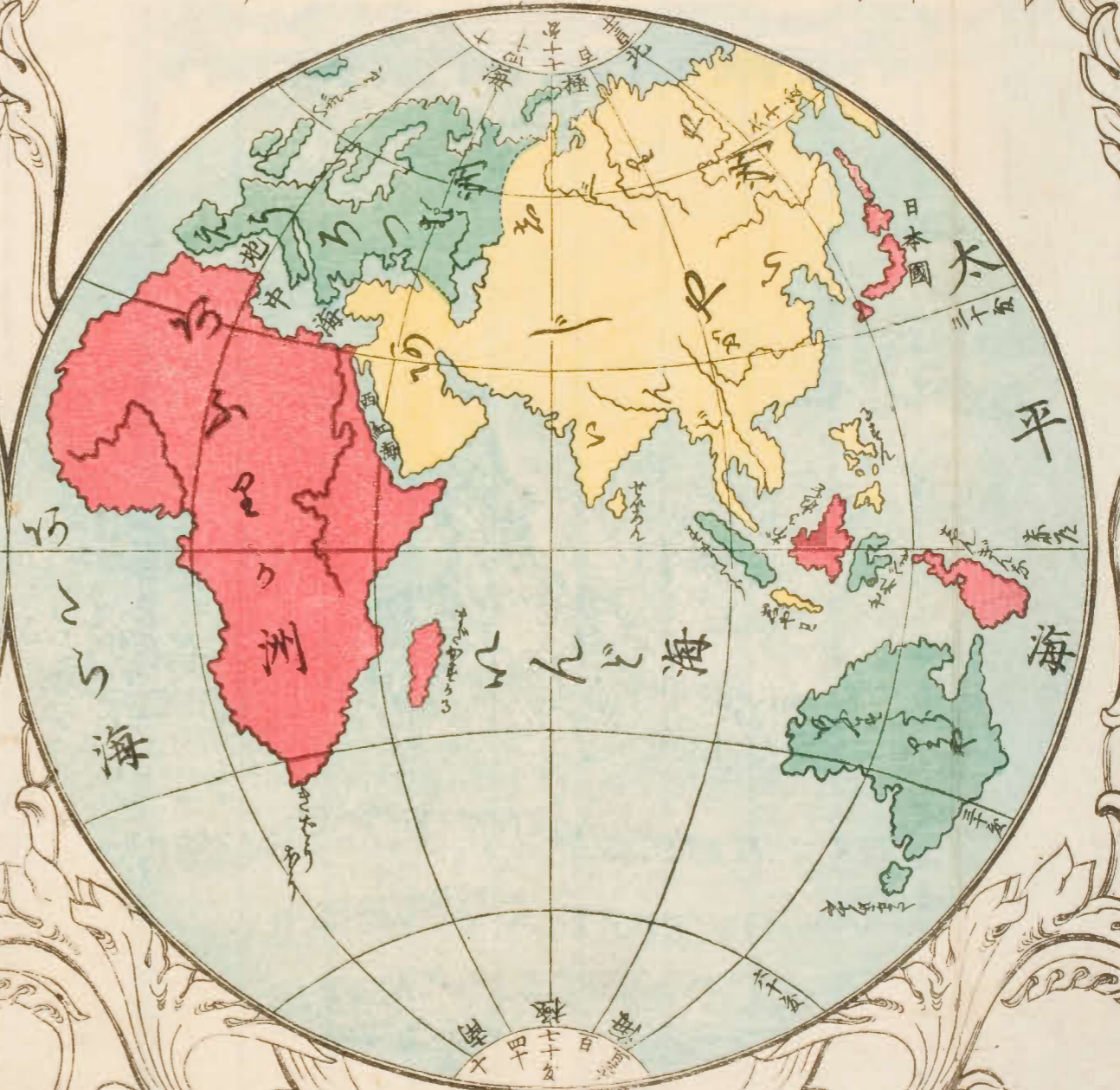
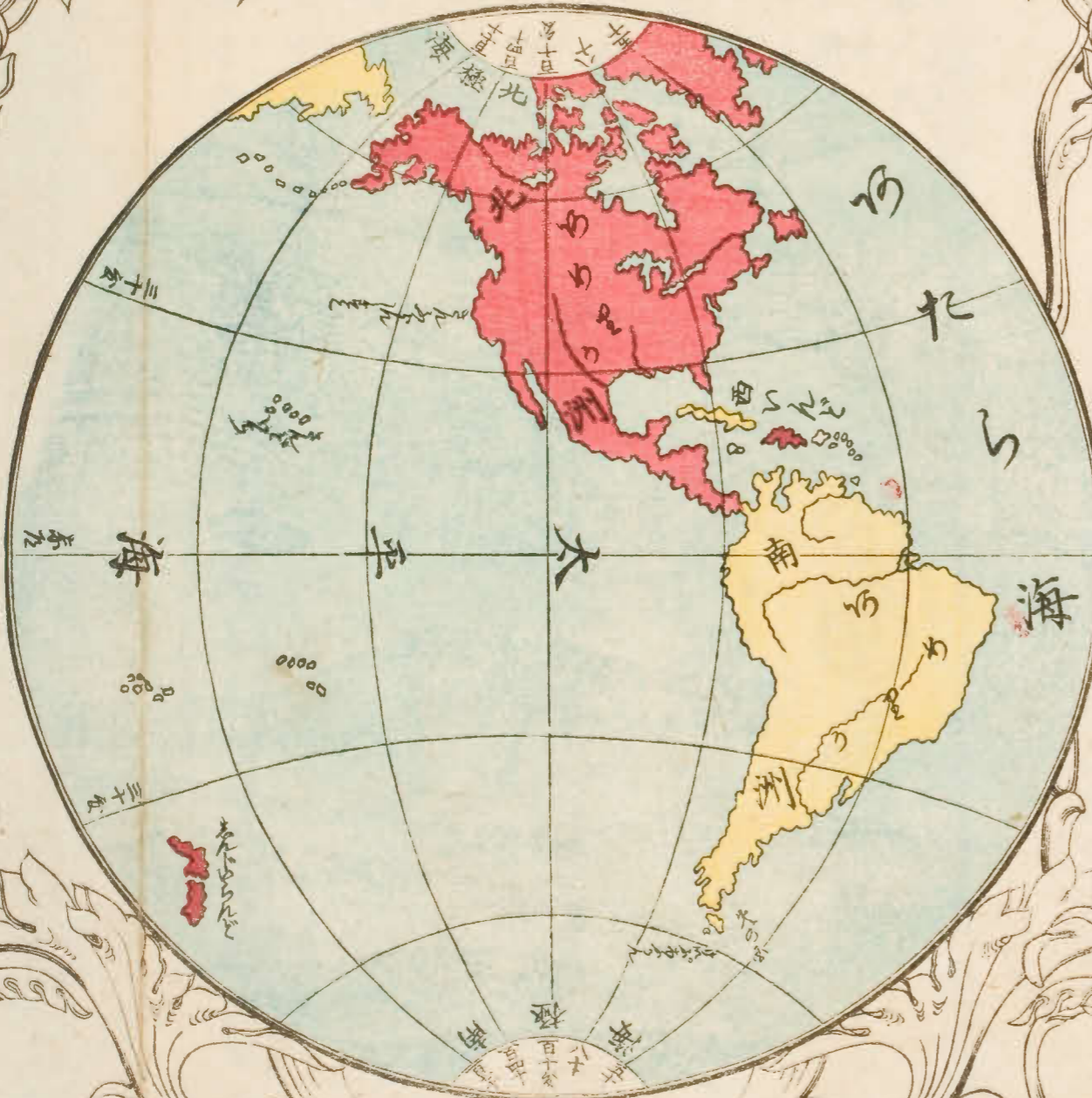


陳の洋面圖



西の半世界の界

東の半世界の界





世界人民の事
 世界の廣さハ英吉
 利の一里四方を一
 坪立九二億の坪
 數ハ是れと四小
 分三十分ハ海
 一十分ハ陸なり故
 又人の住ハ陸の廣
 さハ五十萬坪あり
 但し英吉利の一里

世界各國盡

叢端

世界ハ廣く一萬國

を知らずといふ人

予ハ分けて名目を

八日本の十四町四
 十三間又當る
 世界中の人の數ハ
 九十億又近一國々
 の土風自由て面色
 も同トかゝど知愚
 夫一様なり其區
 別と五種に分ち世
 界中多少の割合
 左の如く

亞細亞河洲利加歐
 羅巴北と南に亞米
 利加と環に北亞米
 英大洲大洋海に別
 了すに南に海あり

歐羅巴の人種ハ色

白一其數四億二千

萬人

亞細亞の人種ハ色

少一黄其數

四億六千萬人

亞米利加の山に住

入種ハ色赤一

其數一千万人

阿非利加の人種ハ

名稱なる土地の風

俗人情事変遷

一なるもの様

一なるもの

一なるもの

色黒一其數七千萬

人

大洋洲に住する島

人ハ茶色其數

四千萬人

亞細亞洲の事

亞細亞洲の土地の廣

さハ千五百五十五

萬坪人の數六億人

五大洲の中よて一

多量に得人を以て

北の支那に格ふ

童子の庭の事

始より筆を以て大

略致志を以て

むんの大洲



亞細亞の種

廣き亞細亞の内

人の種類も色々

小の種も蒙古人

の種として其種族最

も多し或ハこれを

亞細亞

地球の北極

を西に先

しす

乃海環

亞細亞人種といふ

氣候も北方志邊里

屋の方ハ甚ど寒く

夫竺の南ハ至きを

赤道近く甚ど熱く

禽獸草木もあきあ

準トク異なり

○支那の廣さハ五

百二十萬坪人の數

四億都の名を北京

倭は北に大平海

の西に才亞細亞海

東に我日本始と

西のこゝと

乃國と云ふ

といふ國中の男子
 ハ皆けし坊主なり
 始て見る人よハ甚
 とうしく思はる



支那ハ亜細亞北天

國人氏杉多ク花廣

くみまろるゝ印度北

魯西亞東のうハ天

平海濱戸を厚く

支那の産物ハ絹布
 木綿瀨戸物其外象
 牙細工等小間物多
 一珠子茶ハ此の國
 の銘産にて毎年外
 國へ積出せらる九
 一億斤ハ近しとい
 ふ歐羅巴亞米利加
 亦ハ茶園あり其の
 國々の人の用る茶

日本國九州紀前江
 長崎河より支那の東
 岸の上海へ海路僅二
 三千里蒸氣船ハ極
 少水ハ十日ハ味ヲ費

香港の景色



ハ支那と日本
積出品あり

一、運河帰るに解あ

南のまらるる香港ハ

英吉利領の孤島

了利き了新

高賣解ふ出地ハ

支那ハ旧き國ハて

往昔ハ大造ナル事

と成シトシものえ

ハ北京ハ南の

方杭州府ニ通船

の堀割も長さ三百

里餘ハ北の方ハ

ハ萬里の長城トて

長さ土堤ハ其高

ハ一丈五尺ト三

山東洋一ハ港ニ

支那ハ

活生古陶雲の時代

あり年以経テ

仁義ニ常然重

大谷小跨山と越
 一六百里の長さ
 及ぶを當時ハ固よ
 修覆もふく崩せ
 次第やれども珍
 き古跡とて西洋の
 人ハ折々見物を
 此長城ハ二千
 年前秦の始皇帝
 胡と防ぐため小築

人情厚く風

高

中

風俗

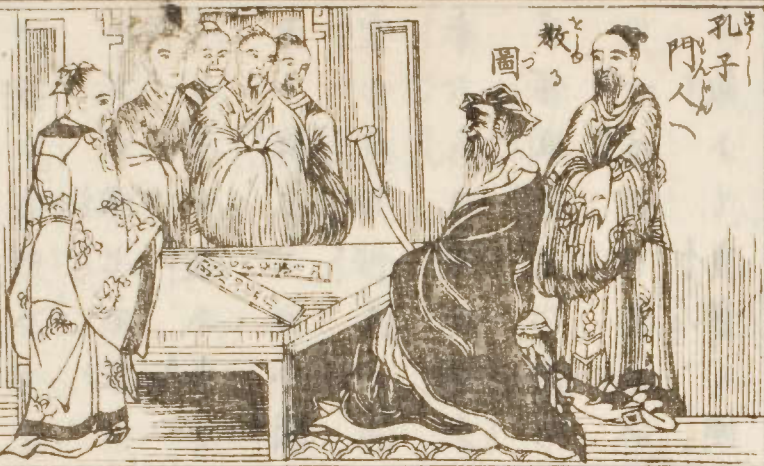
徳

土
 國
 蓋
 卷
 一
 六

さしものあり
 今より二千三百年
 前支那は孔子とい
 へる人の名高き
 學者にて門人も多
 く著作の書も段々
 後の世に傳へ支那
 は勿論日本まで
 人の人のあはと聖
 人として尊敬する

知はみくは我よ孝
 句よ人ありと著る知
 乃高枕暴も来は
 来はまよふをせり致
 抑へし忌改の天罰

支那の政事の立方



適るは学を治るは政

天保十二年癸亥利王

と和成起し唯一戦

と亦成し和睦成り

償洋銀二百萬五

ハ西洋の語を以て
 ちとくといふも
 のみで唯上り立つ
 人の思ふ通ふ事と
 中の人皆倍ふ以て
 奉公人の根性をか
 帳面前さへ濟め
 を一寸のガセとい
 ふ氣にて眞實な國

変の港に於ては
 才を以て愚なる無智は
 民理に於ては
 端に安んずる弱を
 力に戦ひては
 力に戦ひては

の為と思ふ者あく
遂に外國の侮と受

るよふにちをうら

あり既に天保年中

英吉利と打負しと

きも償金と拂ひし

上は香港の嶋と英

吉利と與へ廣東屢

門福州寧波上海五

所の港と無理に開

成行

の多様と憐まり

亞細亞は南の面は海

の臨みも印度地は西

と東と區別し西

世界圖盡卷一

うせらき其後も始
終外國人おふとほ

けらきしよし

○前印度と後印度

とハ鷹寺洲といふ

河を以て界とせし

此河の畔ハ阿羅波

婆土といふ釈迦如

来の靈地なり今ハ

ても毎年諸方より

る分ハ後印度及東

前印度ありしハ

高麗國と暹羅

安南尾留滿玉其又

西益國政府を

景の河州寺鴈



参詣の人数二十萬人
の餘りをもとむ

世界
國
盡
卷一

とくしむる水と人

氣陋しく文字た

西洋人の悔は受

水も汁の水選

羅と度留満のあひ

後印度のあとと西

洋人ハびんど

んと以ふ大抵残ら

モ英吉利領あり唯

其北の方ハ獨立國

と唱へ英の支配と

受ざるもの二三國

ありのモ前印度も

西の方ハ英の支配

下り

下りるまみまらるま長

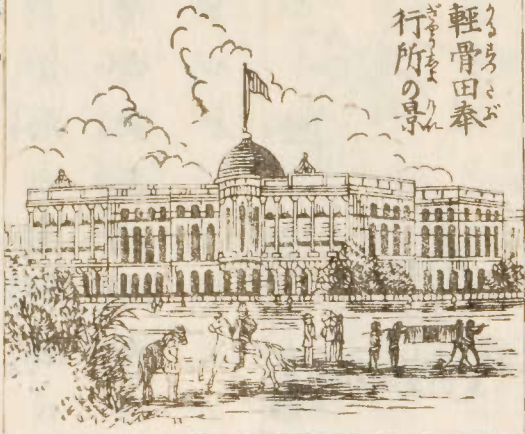
北満首花、汝磨

多良嶋とあ對し東

西僅う二千餘里間

北海、汝磨首花の

輕骨田奉
行所の景



満落花の南の端
新賀堀といふ小島

のり英吉利領の港
あて諸國の船の立

世界圖畫卷一

十

瀬戸と存りて萬里乃

船の往来ハ賑しく

成戸ハ其を以て印及海

北の白と雜糧のハ海

深くハ免ハ粟の河

寄る所あり

後印度の南の端

西論といふ島

同トく英領

り此港

釋迦誕生の地

といふ



の東岸に并た都

「種骨田英吉利飲の

惣奉行印度北方を

交りし軍艦商船

「教多し其細法玉に英

印度の産物ハ材木

米麥砂糖蜀黍麻藍

烟草胡椒阿片黄金

鉄銅珠玉の類且ハ

の地ハ春夏秋冬の

差別ナレ暖國ニテ

色々珍らしき菓實

多ク獸類ハ獅子

犀象虎又恐ろしき

大蛇蟒蛇ト云山ハ

吉利ハ盛弊ナク也

スナリトハ前印

度ハ傾地トモ

印度ハ西の國トモ

河茨賀仁波丹玉苗

十一

居るよ

獅子

うしろへ
喰ふ



○邊留社ハ舊國カ

まとも元來人氣粗

く政事向暴虐ホ

森漢丹シモンの端ハシ

の鹿留シカ知漢丹チカン楮立コヅ

國クニ以名イナ河カ水ミヅ々々風カゼ

俗ソク糧リョウ夷エ秋アキ於オ西セ

下シタ邊留社ヘンリウシャ名ナ

て下々の取扱よろ
 一からござるゆ一國
 の力次第お衰つ當
 時に至てハ文武と
 もお引立ぢ千八百
 十三年十年千八百
 二十八年一政十魯
 西亜と戦ひ兩度と
 も敗北して大又土
 地を失つて近來ハ

世と所謂吉國を

紀元以前六百年

白洲五と云る天海

の風を知らる何と武

威は其由云の義

○荒火屋の大國（ヤハヒヤハ）は

もども砂漠（スナバチ）として邊（ヘリ）

えなく廣（ヒロシ）き砂原（スナハラ）ゆ

て且（ナカ）氣候（キコウ）の熱（アツク）

雨（アメ）は少（オウカ）く住（スミ）ふも宜（ヨシ）

からざり地（チ）

されども平地（ヘイチ）もハ

草木（ソウボク）よく生長（シヤウシヤウ）を産（ウ）

物（モノ）ハ藥種（ヤクシュ）菓實（クワジツ）のび

の類（ルイ）多（オホシ）く獸類（ジュルイ）もハ

王（オウ）富（フ）紀（キ）水（スイ）世（セイ）とて思（オモ）

つる

通（ツウ）南（ナン）極（キョク）の海（カイ）角（カク）

し西（セイ）のし砂漠（スナバチ）廣（ヒロシ）

荒火屋（ヤハヒヤハ）大國（オホクニ）南（ナン）の分（ブン）

馬駱駝ウマラクダ殊トハハらビ

ハハの馬ウマとてハハ既スハハ

日本ニッポンハハも渡ワタリ世界セカイ

中ナカの名馬ナマナリ此國ココク

ハ風俗フウゾクハハ一ヒトククあり

盜賊トウゾク多オホク一ヒト國クニの

人々ヒト々廣ヒロクハハ漠バクと越ユ

て旅行リョウギンハハハハ大オホ

勢駱駝セラクダハハ乘ノリ武ブ器キ

と携ヒキハハて通行ツウギョウハハ

下シタ意イ火カ屋ヤ海カイ北キタ冬フユ

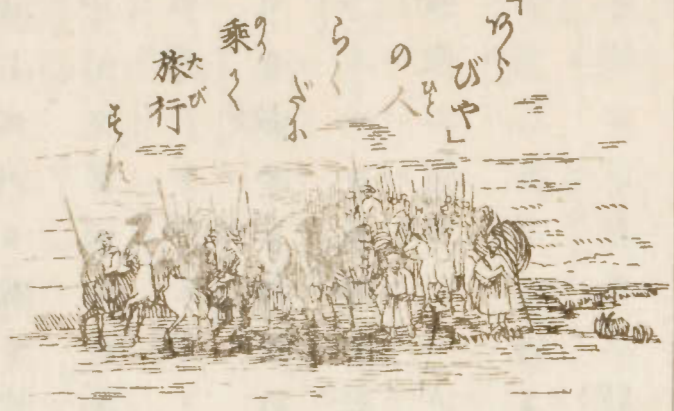
土ツチ苗ネ古コ之ノ塚ツツミ一ヒト之ノ西セ

冬フユ互タガヒ面オモテ互タガヒ之ノ陸リク

彼カノ岸キ望ノゾミ多オホクハハ河カ冰ヒョウ利リ

加カ海カイ中ナカ公クニ厚アタリ之ノ

とさう



○土留古の領介ハ

西紅海子の南に地

孫、東洲の北に峽

石元高見下百里

星の鉄道は北に

水、地中海に細

歐羅巴と亞細亞と
 の二大洲は跨る地
 中海と黒海との間
 の瀬戸と以て界と
 せし故に亞細亞の
 方は何れも飛地と亞
 細亞土留古といひ
 歐羅巴の方外何れ
 本領と歐羅巴土留
 古といふやうに當時

河洲利加歐羅巴已三
 玉塚於中海之海
 島一不亞細亞
 屋兩儀屋羽禮次多
 院惣名無由互土留

ハ土留古の政事不
取締ふく飛地の領
介は八度々騷動の

るより

○魯西亞も歐羅巴

と亞細亞と地續は

て西方又領分あり

二大洲の界ハ宇良

留山あり志邊里屋

ハ馴鹿といふ鹿

古くは志留山に居る

欣地なる事

志邊里屋を亞細亞

に北より南より西

宇良留山に鹿あり

以て馬の代は用
 也又一種の犬は
 ありても牛馬の如く
 車を引くといふ



馴鹿
 氷

東の倭を無利加
 近くもよみ小瀬
 戸水まみを交
 那こころひを北を
 邊まに北極海東西

志邊里屋ハ土地廣
 けもども人少く三
 百萬人お過む土人
 ハ獵と渡世とせし
 又宇良留山の邊
 ハ金銀の山多く魯
 西亞の本國を罪
 人と移して夥しく
 金と掘出るといふ
 志邊里屋の産物ハ

一、五、百、餘、里、南、北
 八、百、里、魯、西、亞、の、領
 地、の、廣、大、ハ、世、界、第、一、
 比、類、を、有、す、一、ハ、名、
 一、ハ、名、奉、行、所、ハ、西

獸皮^{くわひ}を賣^う買^{かひ}城^{じやう}の
 交易^{かうぎ}も皮^{かわ}と以^{もつ}て
 支那^{しな}の及^{およ}物^{もの}瀬^せ戸^と物^{ぶつ}
 も易^{やす}うといふ
 嘉^か無^む薩^{さつ}加^かの港^{こう}とて
 以^{もつ}てろわろをまきと
 いふぬの處^{ところ}は東^{とう}
 の方^{ほう}魯^ろ西^{せい}亞^あ領^{りやう}の亞^あ
 米^{まい}利^り加^かへ往^{かう}來^{らい}の海^{かい}
 上^{うへ}甚^しど近^{ちか}し

玉^{たま}筋^{すぢ}戸^と保^ほ苗^{めう}漢^{かん}
 東^{とう}國^{こく}筋^{すぢ}尔^に伊^い苗^{めう}之^の漢^{かん}
 南^{なん}境^{かう}の喜^き河^か之^の田^{でん}
 賣^う買^{かひ}城^{じやう}の隣^{りん}し
 支^し那^なと魯^ろ西^{せい}亞^あの南^{なん}境^{かう}

嘉無薩かの景



物^{もの}互^{あひ}互^{あひ}易^{やす}易^{やす}交^ま交^ま易^{やす}

場^ば末^{はつ}廻^ま廻^ま李^り黑^{くろ}松^{しょう}

江^え瓦^ゐ建^た建^た仁^に古^こ来^{らい}

府^ふ我^が日^に本^{ほん}以^も以^も銀^{ぎん}夷^{えい}夷^{えい}地^ち

煙^{えん}多^た方^か方^か中^{ちゆう}中^{ちゆう}海^{かい}

魯西亞の政府ハ昔

地面を廣くも

小心掛け近

年ハ又滿州の地を

取て専ら黒龍江の

邊小手をハも軍艦

も始終碇泊一河ハ

ハ小形の蒸氣船を

浮べて運送の便利

と達せり

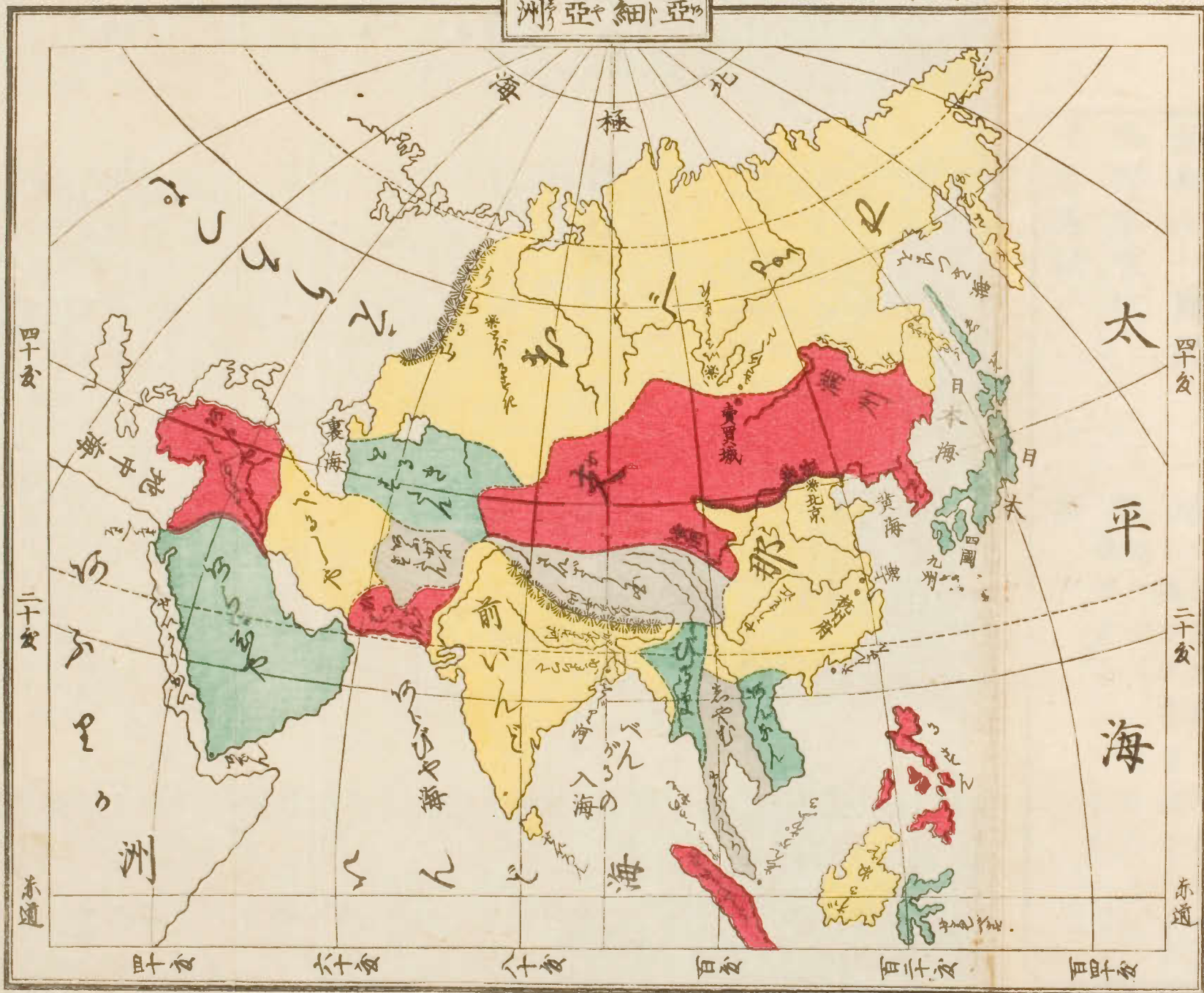
東の王の海子突

海子突

加亞細亞

付

洲亞細亞



慶應義塾蔵版目錄

西洋事情 初篇

三冊 上方は偽版三四様有り

同 二篇

三冊 既上脱稿

同 外篇

三冊

西洋旅案内

二冊 六れも偽版二三様有り或ハ事情次第篇あど偽まり

同 外篇

一冊

條約十一國記

一冊 これ偽版二様有り

西洋衣食住

一冊 例の如く

華英通語

一冊 偽本

英文熟語集

一冊

雷銃操法 初篇

一冊

同 二篇

一冊

同 三篇

一冊

洋兵明鑑

五冊

室扶斯新論 醫書

二冊

窮理圖解

三冊

天變地異

一冊

英議事院談

二冊

萬國一覽 袖珍

一冊

此層も偽版の噂有り他の例も従へば實説ありん

養心齋 蔵書 目録

2
4
6

英文典

一冊

博物新篇補遺

三冊

旗章說畧

一冊

清英交際始末

二冊

英軍艦刑法

一冊

頭書 世界國盡

六冊

西洋 各國 錢穀出納表

一冊

生產道案內

二冊

脫稿

福

13-1

著作